

## 説明会質疑応答記録

### <第1回 楽田ふれあいセンター> 5/9 (土) 14:00~ 参加者: 3人

- ・楽田の水が地下水を使用しているのを知らなかった、県水と楽田の井戸で、水質に差はないのか?  
→多少の差は出るが、決められた水質基準が守られた水を供給している
- ・地下水に異常が発生した場合、木曾川の水（県水）に切替えることができるのか?  
→県水への切替えは可能
- ・犬山市の水は県内で1番安い、今後も継続されるのか?  
→一般家庭では値上げ後も県内では1番安い
- ・水道料金の高さは水源からの距離と聞いたことがあるが  
→水源からの距離ではなく使用量、大量に使用している企業の負担は大きい料金体系となっている  
犬山市の水道料金が安いのは、家庭用に安い料金体系を採用していることと、市で作っている水の割合が多いため安い

### <第2回 南部公民館> 5/10 (日) 10:00~ 参加者: 1人

- ・料金回収率とは?  
→水道料金収入で賄う率、100%未満だと赤字
- ・以前から管の更新をもっとしたらどうかと提案してきた、1番古い管でどのくらい経過しているか?  
→分かる物で古い管は54年経過しているが、簡易水道が統合した管は不明で17kmくらいある
- ・お金がかかっても水道管の更新をスピードアップしなければならないのではないか?  
→耐震化を進めるため、重要度の高い水道管を優先して更新をする  
重要箇所では更新年に達していなくても前倒しで更新していく
- ・水質について、PFASの基準が厳しくなった場合の対応にかかる費用は見込んであるのか?

→今回の経営戦略では、現状の制度で作成しているため見込んでいない

- A3の概要版の裏の料金表で家事用で5 m<sup>3</sup>まで基本料金、10 m<sup>3</sup>から11 m<sup>3</sup>になると単価の差が大きいが  
→使用した水量全部にその単価がかかるのではなく、水量段階区分により超過した分の料金単価が段階的に変わる
- 人工衛星の漏水調査を豊田市で先行して実施しているが、効果は出ているのか？  
→豊田市の人工衛星について個別の効果を詳細には把握していないが、市街地では管が密集しているので分かり難いと聞いている  
一方、山間部は分かり易く、現地調査方式では難しい山間部をカバーできると期待している
- コスト削減について、メーターの検針をスマートメーターを導入することでコスト削減にならないか？  
→国の方でDXを推進しているが、スマートメーターの価格が高く、現状では検針員の方がコストも安い  
難検針箇所には1コでも導入するが、全体としてはスマートメーターの価格がもっと安くなしないと難しい  
今後の中長期的な課題

### <第3回 市役所> 5/19 (火) 19:00～ 参加者：5人

- 高齢化で人口減が見込まれるが加味されているか？  
→人口減を見込んで作成している
- 県水6割と市の水4割、市の水で賄えないので県水が必要なのか？  
白山浄水場での取水を増やせないか？  
→地下水については地盤沈下の防止のため規制されている中、上限で取水をしている  
木曽川の水の白山浄水場も水利権で規制されているが、上限で取水をしている  
他の自治体に比べても、犬山市は既得権があり有利に取水できている
- 県水が年間4千万円UP、値引き交渉はできなかったか？  
→県もコスト高で値上げ、県内全て同じ単価、各市町から値上げを待ってと交渉していたが値引きはならなかった、緩和措置として2段階での値上げと

なった

犬山市からの緊急提言で市長会から県へ意見したが、値上げを止めることはできなかった

- 今後、社会情勢が変化し物価が下がった場合に値下げはされるのか？  
→水道法では5年間ごとに見直しをすることになっている  
現状は物価高で値上げだが、今後、物価が下がった場合は見直しで値下げもありうる
- この説明会で犬山市には水系が3つあると知った  
昔に聞いた話しでは、犬山から名古屋へ水を売っていると思っていたが違うのか？疑問に思った  
→犬山市が水を売っている訳ではなく、名古屋市が犬山市内の木曾川から取水して名古屋市へ送っている

#### <第4回 市役所> 5/24（日）10：00～ 参加者：8人

- 水道は木曾川の水だけだと思っていた、地下水を取っているとか浄水場がこんなにあるのを初めて知った  
メーターの口径について、一般家庭の料金はみんな一律とのことだが、一般家庭でも口径に違いはあるのか？  
→一軒家で1番多いのは20で、13か20がほとんど、集合住宅だと40のところもあるが13～40までは同じ料金体系となる
- メーターの口径が大きければ水の流れる量も多いが、口径が大きくても小さくても当然その水量は計測できるのか  
→はい。
- 人口減少で水道料金まで減ることが実感できた、こうして早め早めに対応してもらえることは非常に良い事だと思う、大幅な赤字になってからどうにもならないではいけない  
水道からの生水が飲めるということは非常にありがたいこと、今後も外部委託料など上がってくる、今回の料金改正については、やむを得ないという認識でいる
- 県水の量を減らし負担を減らすというシミュレーションが見えない、あと管の補修を72年で設定しているが根拠はあるのか？  
→県水の量について、収支のシミュレーションでは、県水と自己水それぞれの

使用量を想定し積み上げて計算をしている

その前提として、自己水である白山浄水場と地下水系については、許可が得られる上限に近い量を現在も利活用しており、水の需要が減った場合でも自己水は一定量を維持したまま、県水の購入量の方を減らしていくことを織り込んで収支計算をしている

水道管の72年について、水道管の種類によって実際の寿命は60~100年と異なるため、犬山市内の水道管全体から平均を算出し72年としている

- 耐震用の水道管に切り替わるということだが、楽田地区はどれくらいで切り替わるのか？

→水道管の更新は耐震化に切替えるために工事をしているというよりも、老朽化しないよう水道管を入れ替える際に、安い水道管ではなく耐震性の水道管を使っているということ

楽田地区全域を何年度までに、耐震管に切り替えるという目標で計画はしていない

全ての水道管が新しい耐震性のある管になれば1番良いわけだが、その工事費用は皆さんに水道料金として負担してもらうことになる

水道料金を際限なく値上げして、どんどん工事を進めて行くようなことは当然できないため優先度を決めて工事をしていく

事故があった場合に影響が大きい重要な管については、72年を経過する前でも重点的に工事をする計画になっている

楽田などの小さい浄水場が地震で停止した場合には、県水に切替えることができるバイパス管についても継続して工事をする、これらが今後10年間の前倒し計画の中に入っている

- 重要な箇所をやるというのは分かるが、それ以外の施工箇所はどうやって見極めているのか？

この地域はあと何年とか、それとも破裂しないと優先度は上がらないのか？

→水道管の老朽化については、いつ工事した水道管なのか分かる工事台帳あり、市内全域をデジタル化した配水管網図というデジタル地図もあるので、水道管の古さと種類による弱さを考慮して工事の計画をしている